

第2学年 社会（地理的分野） 学習指導案

1 単元名 「日本の諸地域～関東地方～」

2 単元の目標

- (1) 関東地方の自然環境や産業などを概観する中で、人口や都市について関心を高め、それについて意欲的に追究しようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 関東地方の地域的特色を、人口や都市を中核とした考察を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- (3) 関東地方に関する様々な資料から有用な情報を適切に選択し、関東地方の地域的特色を読み取ったりまとめたりすることができる。 【資料活用の技能】
- (4) 関東地方について、人口や都市を中核として考察した地域的特色や地域の課題を理解し、その知識を身に付けている。 【社会的事象についての知識・理解】

3 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は、中学校社会科学学習指導要領の2内容の「C日本の様々な地域」の「(3)日本の諸地域」にあたり、「幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること」や、「①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること」をねらいとしている。また、「日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する」力を身に付けることができるように指導することが求められている。

これを踏まえ、関東地方については、①から⑤までの考察の仕方のうち主に②の「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」を基にして、前述のような知識や思考力・判断力・表現力を身に付ける単元とする。また、学習指導要領の3内容の取扱いには、「地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること」とあるので、特に、関東地方に暮らす人々の生活を踏まえた視点に留意して授業を構想する。

関東地方の地域的特色として、他の地域と決定的に違う点は人口の集中である。日本一広い関東平野に人口が集まり、政治・経済・文化の中心となっている。東京大都市圏が拡大を続けることで発達した交通網や情報網により、他の地域や国外との結び付きが強くなっていることも特色の一つである。同様に、人口集中に伴う様々な都市問題が深刻化していることも押さえなければならない。なぜ関東地方に人口が集中するのか、そこに暮らす人々の生活は新潟に暮らす私たちとどう違うのか、という課題について資料を基に追究したり話し合ったりする活動を通して、関東地方の地域的特色を理解できるよう授業を構成する。また、来年4月に関東地方（主に東京）への修学旅行があるので、関東地方への興味・関心を高め、本単元で学習したことを修学旅行の事前学習に生かせるような学習にしたい。

(2) 生徒の実態

社会の学習に関してのアンケートの結果から、社会は好きだが地理は好きではないという生徒が一定数いる。その理由として「同じようなことがたくさん出てくる」「似たような名前が多くて覚えられない」などを挙げていた。こう考える生徒は、地図やグラフの読み取りより知識の習得を地理の学習として重視している傾向がある。地理が好きな生徒は「知らない地域のことを知ることができる」「知識が増える」など既習事項や身近な地域と比較することで興味をもって学んでいることがわかる。また、東京は「都会・大都市」と「人が多い」というイメージを持っている生徒が半数以上いる。単元を通して、このイ

メージが広がったり別の角度から見ようとしたりする態度を身に付けさせ、関東地方について理解が深まるよう工夫する。

4 指導計画及び評価計画（全6時間）

	学習のねらい（○）と 指導の手立て（・）	評価規準	評価の観点				留意点 (評価方法)
			関心	思考	技能	知識	
1	○関東地方の自然環境の特色を理解する。 ・主な地形の位置・名称を確認し、雨温図から気候の特色を読み取らせる。 ・ヒートアイランド現象による気温の上昇や集中豪雨による被害について考えさせる。	・関東地方の自然環境について資料を活用して調べ、基礎的な知識を身に付けている。 ・都市化の影響による環境の変化や様々な問題について意欲的に追究している。	○			○	行動観察 ノート
2	○関東地方の中心地・東京の役割を理解する。 ・地図を活用して大都市ならではの施設や交通網を調べさせる。 ・日本の中核機能についてまとめる活動を通して、首都の役割を理解させる。	・東京の主要な施設の位置と交通網を関連させて読み取ることができる。 ・日本の中核機能を政治、経済、文化の面からまとめ、説明することができる。		○	○		グループ活動 ノート
3 本時	○東京と周辺地域との結び付きを考える。	「本時の指導」に記述					
4	○人口集中による都市問題と対策について考えを深める。 ・東京の通勤ラッシュやごみ問題など都市問題への関心を高める資料を示す。 ・今後起こりうる都市問題を予想し、対策を考えさせる。	・人口集中の結果として起こった都市問題の現状を理解している。 ・新都心の整備など都市問題の対策を考えたり、表現したりすることができる。	○	○			グループ活動 ノート
5	○関東地方の産業の特色を理解する。 ・地図やグラフを読み取らせ、工業地域の立地と工業生産の特色について理解させる。 ・農業の特色を人口分布と関連させて説明させる。	・臨海部と内陸部の工業の違いに着目して、関東地方の産業の特色を理解している。 ・大消費地との結び付きや自然環境に着目して、関東地方の農業の特色を理解している。			○	○	行動観察 ノート
6	○関東地方と他の地域や世界各地との結び付きを考える。	・資料を基に、関東地方と他の地域との結び付きについてまとめることができる。		○	○		ワークシート 行動観察

5 本時の指導（3／6）

(1) 題材名 「東京と周辺地域との結び付き」

(2) ねらい

①千葉県印西市の人口が急増していることに興味を持ち、その理由を追究するために意欲的に資料を読み取り、根拠のある理由を見つけることができる。 【資料活用の技能】

②東京の周辺地域の人口が増えている理由を、印西市を例にして多面的・多角的に考察し、自分の言葉で説明することができる。 【社会的な思考・判断・表現】

(3) 期待する生徒像と指導の構想

①ねらいに対する具体的な姿

ア 資料活用能力の向上についての工夫

関東地方のある都市に見られる特色から「なぜ」という問いを持ち、その問いを解決するために意欲的に資料を読み取り、有用な情報を見つけられる生徒

イ 表現力の向上についての工夫

資料から分かったことや追究の過程で考えたことを自分の言葉で表現し、グループの中で意見交換をしながら「なぜ」に対する答えをまとめ、説明できる生徒

②ねらいの実現に対する手立て

ア 資料活用能力の向上についての工夫

新潟市に暮らす生徒にとって馴染みのない千葉県印西市についての話題を提供することで、「なぜ」という疑問や「知りたい」という意欲を引き出し、生徒とともに学習課題を設定する。課題を追究するための資料は見やすいものを複数提示することで、他の生徒と関わり合いながら読み取りができるようにする。社会の学習が得意な生徒だけが意見を言って、他の生徒が意欲を失わないように配慮する。また、資料の読み取りが苦手な生徒もいるので、グループ内で教え合いができるように学力や人間関係を考慮したグループを構成し、役割分担を明確にする。

イ 表現力の向上についての工夫

生徒一人一人に課題に対する答えを予想させ、グループで発表し合う。自分たちの予想を裏付ける資料はないか、資料から別なことは考えられないかなどをグループで相談したり議論したりしながら、お互いの考えを深める活動になるよう支援する。グループで出た考えをホワイトボードにまとめ、全体に発表する。個人での予想、グループ活動で分かったことなどを記述し、授業を通してどのように考えが深まり、何が分かったかをまとめるためのワークシートを用意する。全員が分かったことを自分の言葉で書けるよう、振り返りの時間を確保する。

(4) 展開

	学習活動	形態	教師の働きかけと予想される生徒の反応	留意点(☆)と評価(◆)
導入 5分	1 東京の周辺地域でも人口が増加していることに気づく。	一斉	T 1 : 前時の学習内容を確認する。 T 2 : 関東の人口変化のグラフを提示する。 S 1 : 東京よりも埼玉・千葉・神奈川の方が増加率が高い。 S 2 : さいたま市・千葉市・横浜市の人口は、他地域の都市と違って増え続けている。	
展開 35分	2 学習課題を設定する。		T 3 : 人口が多いのは東京だが、東京周辺の都市の人口も増加しているという点が、他の地域と違うことに注目させる。	
	学習課題：なぜ東京の周辺地域に住む人が増えているのだろうか？			
	3 東京に近い、千葉県印西市に興味を持つ。	一斉	T 4 : 「いんザイ」君を紹介し、印西市の位置を地図で確認する。 T 5 : 印西市が「住みよさランキング」7年連続全国1位であることを説明し、人口が急速に増加しているグラフを提示する。	☆ランキングの話題に踏み込みすぎないようにする。

	4 印西市に住む人がどうして印西市を選んだのか予想する。	個人	S 3 : 電車とかで東京に行きやすいから。 S 4 : 東京は人が多すぎて住みにくそうだけど、少し離れたところなら環境も良くて住みやすいのではないかな。	☆既習知識や自由な発想を基に予想するよう助言する。
	5 資料を基に、都心と印西市を比べる。	小集団	T 6 : 資料を配付し、グループで確認し合いながら資料を読み取らせる。読み取ったことをワークシートに記入させる。 S 5 : 東京は土地が高い。それに比べて印西市はかなり安いから家を建てやすい。 S 6 : 印西市から東京に通勤する人が多い。 S 7 : 交通の便がいい。東京駅まで40分で行ける。成田空港も近い。	☆机間巡視をしながら進行を促し、資料の読み取りをグループで共有するよう声を掛ける。
	6 印西市ならではの魅力を見つける。	一斉	T 7 : 「東京の周辺で土地が安いところは他にもあるのに、印西市を選ぶ人が多いのはどうしてだろう？」 T 8 : 印西市のまちづくり政策を説明する。 S 8 : 印西市が力を入れている政策を見つけ、ワークシートに記入する。	
	7 印西市に人が増える理由をグループで考える。	小集団	S 9 : ここまでにわかったことから、印西市の人口が増えている理由を話し合う。 S 10 : 記録係がホワイトボードに書き、全員で共有する。ワークシートにも記入する。	◆資料から読み取ったことを根拠にしてグループの考えを説明できる。 【資料活用の能力】
	8 グループの考えをまとめ、発表する。	全体	T 9 : いくつかのグループに発表させる。 S 11 : 東京は土地が高いので、東京に通える距離にあって土地が安い印西市に住もうと考える人が多い。印西市も人口を増やすための政策をして、住みよいまちづくりをしている。	・話し合い ・発表 ☆発表後にボードを黒板に貼って見返せるようにする。
		一斉	T 10 : 印西市の調査から「印西市に転入を決めた理由」を紹介する。	☆簡単に触れる程度にとどめる。
まとめ	9 まとめをする。	個人	T 11 : 他の周辺地域でも印西市と類似の状況があることを確認する。 S 13 : 東京には企業や学校が集中しているため人口が集中し、地価が高くなった。そのため、印西市のように土地が安く交通の便がよい、周辺地域に住んで、東京に通勤・通勤する人が増えている。	◆印西市を例に、東京周辺地域に人が増えている理由を自分の言葉でまとめている。
10分	10 自己評価する。		T 12 : 今日の授業で分かったこと、分からなかったこと、興味を持ったことなどを自己評価カードに記入する。	【思考・判断・表現】 ・ワークシート

(5) 評価

印西市の人口が増えた背景を資料から読み取り、それを基に多面的・多角的に考察し、東京の周辺地域に住んで都心に通勤・通学する人が多いという関東地方の地域的特色を説明することができる。